

I 結果のポイント

1 全道の状況

(1) 平均正答率の推移【P2～4】

- 全国との差が、前回と比較して、中学校国語A、数学Aの2教科で同じ、小学校国語B、算数B、理科、中学校国語B、理科の5教科で差が縮まり、そのうち中学校国語A、中学校理科は全国以上、小学校国語A、算数A、中学校数学Bの3教科で差が広がった。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が2.9ポイント以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.9ポイント以内。
- 平成27年度の中学校第3学年が、平成24年度に小学校第6学年で調査を実施した結果と比較すると、全国との差がすべての教科で縮まっている。

(2) 各領域等の平均正答率【小学校：P5～6、中学校：P11～12】

- 小学校は、理科「物質」で全国以上。
- 中学校は、国語A「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語B「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、理科「物理的領域」、「地学的領域」で全国以上。

(3) 質問紙調査【小学校：P7～10、中学校：P13～16】

- 児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、「国語・理科の勉強が好き」な児童生徒や、「家で学校の授業の予習や復習をしている」児童生徒、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合は全国を上回っているが、「1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- 学校質問紙調査では、小・中学校ともに、「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」学校や、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」学校の割合は全国を上回っているが、小学校では「国語、算数の家庭学習の課題（宿題）をよく与えた」学校、中学校では「国語の家庭学習の課題（宿題）をよく与えた」学校の割合は全国を下回っている。

(4) 正答数の状況（下位層の割合）【P17～18】

- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる本道児童生徒の割合は、中学校理科を除く9教科で、全国より高い（小学校：1.9～4.6ポイント、中学校：0.3～3.0ポイント）が、前回と比較して小学校算数B、理科、中学校国語B、理科で改善。

(5) 全道の学校の平均正答率のばらつき【P19～20】

- 全国以上の学校が、各教科で、小学校は35.0%～40.7%であり、前回と比較して国語B、算数B、理科で改善。中学校は37.3%～54.4%であり、前回と比較して国語A・B、理科で改善。

2 管内の状況

(1) 管内の平均正答率のばらつき【P43～44】

- 全国以上の管内は、小学校では、国語Aで渡島、国語Bで上川、中学校では、国語Aで石狩、檜山、上川、留萌、十勝、国語Bで石狩、檜山、上川、留萌、十勝、数学Aで石狩、檜山、十勝、数学Bで石狩、留萌、理科で空知、石狩、檜山、上川、留萌、十勝。

3 市町村の状況

(1) 市町村の規模別の平均正答率【P101～103】

- 「大都市・中核市」は小学校のすべての教科で全国を下回っている。中学校では国語A・Bで全国以上、国語Aは前回と比較してさらに伸びている。
- 「その他の市」は小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校の国語B、算数B、中学校の国語Bで差が縮まっている。
- 「町村」は小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校の国語B、算数B、中学校はすべての教科で差が縮まっている。

(2) 市町村の平均正答率の度数分布【P104】

- 全国を上回った市町村が各教科で40～98あり、前回（31～80）と比較して小学校の国語B、算数Bで、中学校の国語A・B、数学Aで増加。